



チャンスです

この人と30分

ぶらり訪問②



株式会社アイ・ディー・シー
代表取締役 氷見義治(ひみ よしはる)氏

訪問シリーズ第二八回は、自然との共生を標榜し、健康家具をリードするデザイナーの氷見義治氏。去る八月末、ご多用の同氏をぶらり訪問。

手作りが大切

Q、家具のデザインで留意していることは何ですか？

私が静岡にきて二八年。はじめて図面を書いたのがおもちや箱兼整理箱でした。これを「静岡にこだわりのものができたな」と、今では故人となられた秋岡芳夫先生に目をつけていただき、この言葉に励まされて今日までできました。

かつて大手自動車メーカーのボディデザインをしていた頃「デザインは量産をベースに新しい物を作り出せばよい」と考えていました。その後、静岡に来て様々な方々との交流の中で「手づくりがいかに大切か」ということを身をもって実感してきました。

今では、「環境、安全、健康」につながる森林環境保全への配慮、環境汚染物質の排除、五感の復権、自給自足的・建築工法的家具などを念頭に物づくりのお手伝いをしています。

集積活性化事業が引き金に

Q、健康家具を手掛けるきっかけは何でしたか？

かなり以前から私は、シックハウスの問題は家具にも大きな原因があることを指摘してきました。

そんななか、県の集積活性化事業を活用し、県静岡工業技術センターの協力を得て、各種家具からのホルムアルデヒドの放出量の計測、化学塗料と植物油オイルの調湿力の比較等、まず静岡の量産家具に対する問題点を科学的に検証しました。

有害化学物質放散の危険を孕んだ在来の商品を生産して今日を生きたる家具屋さんを説得し、この理解を得て安全性の高い家具の試作に入ったのが六年前、そして五年前にはじめて試作品ができました。在来商品を生産しつつ、これとは全く視点の違う健康家具を作るというジレンマの中で試行錯誤を繰り返して、ようやく今年六月の静岡家具メッセにおいて「消費者が選ぶ幸せ大賞」を受賞しました。

これまでも安全性の高い家具や地産産物の健康家具での受賞はありましたが、今回の受賞は消費者、そ

れも二十代の女性が一番ほしい家具として選んでいただいたもので、格別の思いがあります。

バブル崩壊が後押し

Q、開発経過をお話してください。

バブル期は消費者を含めて正常な範囲から逸脱した行動にみんなが気づかなかつた。その後バブルがはじけ、メーカーは何を作っても売れない状況が続きました。百貨店を得意先とするメーカーでは、いつも最先端でユーザーを引き付けることに主眼を置いた物づくりをしてきましたが、消費者の目が大きく変わりました。「家具は消耗品ではない」「合板よりも無垢の方がよい」などロングライフと健康家具への指向です。

これを受け、最初は全部広葉樹の無垢で作りましたが、とても高額で売れませんでした。しかし、消費者からはナラ材等広葉樹に対する根強い支持があり、これとF1タイプ(低ホルム)合板を組み合わせ、安全な仕様を検討してもまだ市場流通品より二割くらい高くなってしまふ。少しずつ売れるのですが、確かな手ごたえとして伝わってきません。

「静岡発」川くだわね

Q、最後に木材業界に向けて

今、一番危惧することは、針葉樹主体の日本の森林です。これを健全に維持するためにも、地域内で生産と利用を完結する新しいネットワークづくりが必要です。私たちの実践に即して言えば、木材は決してローテクではなく、ハイテク要素を数多く内包しており、しかも手作りと合体できる便利な素材です。

もちろん、木材の利点に科学的な裏付けを与え、WHO(世界保健機構)やISO(国際標準化機構)といった国際的な基準、規格にも適合した品質や性能を目指すことも大切です。

こんなにも天然資源と気候に恵まれた本県ですから、静岡茶に負けず、木材や家具のことも静岡がまず手本を示し、全国に地域の取り組みを発信して行くことです。

社会、経済が大きな変革の時にあっても、小さいからやりやすい分野がある。加えて、健康、本物指向の追い風がある。発想を変えれば、これはもう千載一遇のチャンスです。(文責 編集室)

千載一遇の

プロフィール

1943年生まれ、富山県出身。金沢美術工芸大学工業意匠科卒、日産自動車造形課、DCSデザイン研究所を経て、1990年同社設立。好きな言葉「美の普遍性」、最近読んだ本「メディアの時代」、(マーシャルマクルーハン著)。血液型B。

ひのき家具
(静岡市・株久和屋ショールーム)

そこで、昨年から無駄なデザインを全部そぎ落とし、機能性とコストに対してできるだけ無駄を排除することに努めました。その結果、装飾的なものが一切なくなり、ハンドル等わずかなデザインと素材が前面に出た商品に行き着きました。前述した「幸せ大賞」はこのシリーズです。

また、この過程で検査部門もできあがり、特に嗅覚の喚起や調湿の科学データを付したベッドや学習机は好評です。建築材としての松はやや高価のため、短尺未利用材を使いこなすことを職人の手作業で進めています。節ありの間伐材は、DIYレベルの木製雑貨を通販ルートで流し、まさに環境配慮の総合利用を実践しています。

大舞台に出展した途端

Q、大きな転機があったのですか？

バブル後の厳しい商況下、大手が徐々に経営規模を縮小するなか、不安になった小さな木工集団の皆さんが相談に見えられ、この時の五社で東京西新宿の東京ガス・オゾンで展示会を行いました。これを契機に行政のご支援もいただき、

昨年十一月、木製家具に夢を持つ九社が結束し、消費者の声を直接聞くために東京有明の国際見本市に出展しました。

この反響が予想外に大きかった。外国へ輸出するチャンスを得たり、海外からデザイン要請があったりと、大舞台に出展した途端、いくつかのリアクションがありました。私のところにデザイン要請があったのは、スウェーデン・ストックホルムに本部を置く北欧針葉樹五六〇社で構成するNTC(ノルディック・ティンバー・カウンセル)からでした。その極東担当から「北欧のレッドパインでデザインを」とのこと。

日程上非常に厳しいため一旦お断りしたのですが、再度要請があったので、デザインだけでなく、三〇四〇〇年の伝統をもつ静岡産地そのものを取り上げることが条件に承諾しました。

同志を募ったら、静岡地区で十四社の家具屋さんが集まり、北欧で実務経験のあるデザイナーも手弁当での協力を申し出てくれました。現在、明年二月のストックホルムでの国際見本市への出展に向け準備を進めています。